

## 第5回 ソーシャル・ファイナンス研究会 社会的価値基準について

ソーシャル・ファイナンスを考える際、社会的価値をどのように評価・報告していくかという課題を避けて通ることはできません。経済的価値と社会的価値の両立を目指すソーシャル・ファイナンスにおいて、社会的価値基準の設定は本質的な問題だと言えます。

ソーシャル・ファイナンスの発展に伴い、社会的価値の評価・報告手法は様々な分野で開発されてきました。単に、社会的投資の成果をモニターし、これを評価して報告する手法だけにとどまらず、社会的企業の認証や格付、投資適格性審査など、幅広い分野で社会的価値基準は利用されています。さらに、近年は、社会的会計・監査の開発や、インパクト報告標準化に向けた試みも進められています。こうした取り組みを通じて、ソーシャル・ファイナンス市場はさらに発展していくことが期待されます。

日本でも、今年3月、内閣府の社会的インパクト評価検討ワーキング・グループが「社会的インパクト評価の推進に向けて」という報告書を発表し、官民の協力による取り組みが開始されました。6月には「社会的インパクト評価イニシアチブ」も設立されています。今後、この動きは加速されていくでしょう。

本研究会では、このような動きを概観した上で、社会的価値基準についての望ましいあり方を議論する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】 11月5日(土) 14:00 - 17:30

【会場】 日本財団ビル 2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2) ([アクセス](#))

【講師】 馬場英朗(関西大学商学部教授)

藤田滋(日本財団ソーシャルイノベーション本部社会的投資推進室)

小林立明(ソーシャル・ファイナンス研究会代表)(モデレーター)

【参加申し込み】

以下のフォームに記入し、事務局([socialfinance2016@gmail.com](mailto:socialfinance2016@gmail.com))までお送り下さい。

---

ご氏名(ふりがな):

ご所属・肩書き :

ご連絡先 : メール1(必須)

メール2(任意)

■以下から一つご選択下さい■

1. ( ) 研究会に参加したい(資料代 2,000円)

2. ( ) 今回は参加できないが、メイリングリストに登録したい

=====

# プログラム概要

## 1. イントロダクション(小林)

社会的価値基準とは何か、これはソーシャル・ファイナンスとどのように関係するのだろうか。本セッションでは、ソーシャル・ファイナンスにおける社会的価値基準として、社会性認証・格付、デュー・ディリジェンスの基準、投資モニタリング、社会的インパクト評価・報告など、各領域で開発されている代表的な手法の紹介を通じて、この問題を検討する。さらに、標準化に向けた動きや法制化に向けた動きの分析を通じて、社会的価値基準の設定が、ソーシャル・ファイナンスにもつ意味を概観する。

## 2. インパクト評価と社会監査について(馬場)

社会的価値を評価する試みは以前より行われているが、資金提供者等の利害関係者にアピールできる一般的な評価手法は確立していないのが実情である。そのなかで、海外ではインパクト・レポートを作成して第三者保証を受けたり、SROIを測定したりするなど、何らかの共通化したフレームワークを用いて社会的価値を評価・報告する取り組みが広く実践に移されている。

特に近年、社会的投資の広がりやエビデンスに基づいた公共サービスの見直しを背景として、世界的に「インパクト評価」を社会的価値評価の基礎となる共通概念として位置づけようとする潮流が広がっている。単なる評価手法ではなく、社会的価値基準の基本構造としてインパクト評価がどのように用いられるか、海外や国内の事例等も取り上げながら議論したいと考えている。

## 3. 社会的インパクト評価・報告について(藤田)

社会的インパクト投資の不可欠なインフラである社会的インパクト評価・報告。資源提供者の意思決定に有用な情報を提供する役割だけでなく、NPOや社会的企業の経営管理、事業改善にとっての有用性や、組織内部でのコミュニケーションツールとしての役割も注目されている。社会的インパクト評価・報告はこれまでの事業評価とどう異なるのか、どういった可能性や課題があるのか。本セッションでは、先駆的な事例紹介もしながら、社会的インパクト評価・報告の考え方、実践を紹介する。また「社会的インパクト評価イニシアチブ」の取り組みの紹介を通じて、日本における社会的インパクト評価・報告の今後の展望、課題についても議論する。

## 講師略歴

### 馬場 英朗(ばば ひであき)

関西大学商学部教授。監査法人トーマツ勤務等を経て、現職。大阪府「SIBを活用した大阪独自の生活困窮者自立支援のための新たな仕組みづくり研究会」、内閣府「共助社会づくり懇談会社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ」「インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」にも委員として参画。著書に『非営利組織のソーシャル・アカウンティング』日本評論社(日本NPO学会林雄二郎賞、国際公会計学会賞受賞)等。

### 藤田 滋(ふじた しげる)

英エセックス大学政治学修士課程修了後、プライスウォーターハウスクーパース(株)、(一財)国際開発機構を経て、2015年10月より現職。ソーシャル・インパクト・ボンド案件組成、G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会社会的インパクト評価ワーキング・グループ、社会的インパクト評価イニシアチブ事務局等、社会的投資および社会的インパクト評価の推進業務に従事。他、平成27年度共助社会づくり懇談会社会的インパクト評価ワーキング・グループのアドバイザーを務める。共著に「革新的資金調達メカニズムと社会的インパクト投資」(アジアワールドトレンド15年2月号第232号)。

### 小林 立明(こばやし たつあき) (モデレーター)

ソーシャル・ファイナンス研究会代表。国際交流基金・日本財団勤務、ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員等を経て、現職。専門領域は、グローバル・フィランソロピーとソーシャル・ファイナンス。主要著作は、「フィランソロピーのニューフロンティア」(レスター・サラモン著、ミネルヴァ書房、2016)(翻訳)、「英国チャリティの変容」(弘文堂書店、2015)(共著)等。

## ソーシャル・ファイナンス研究会について

日本におけるソーシャル・ファイナンスの発展を目指して、研究者、金融関係者、NPO・社会的企業関係者、政府・自治体関係者等による情報交換と調査・研究の促進を目的に設立された研究会です。2016年度は、全8回の研究会を開催する予定です。また、フェイスブック上の「ソーシャル・ファイナンス研究会」グループでも、情報交換を行っています。

- ❖ 協力:(一社)ソーシャル・ファイナンス支援センター、明治大学小関隆志研究室
- ❖ 問い合わせ先:研究会事務局([socialfinance2016@gmail.com](mailto:socialfinance2016@gmail.com))までお願いします。